



S S T K

# さくら草だより

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会  
〒332-0011 川口市元郷 1-10-13  
電話 048-225-1625

編集人 社会福祉法人さくら草  
〒336-0015 さいたま市南区太田窪 3501-2 電話 048-813-7426 Fax 048-886-6301  
HP <http://www.sakuraso.net/> E-mail [sakuraso@www2.kiv.jp](mailto:sakuraso@www2.kiv.jp)

## 「アツイ! サマーボランティア」

人ってやっぱりおもしろい。今夏もやる気あふれる学生さんたちのボランティア活動を見ました。

「すいか割りまつり」で盛り上がった夏のある日、みんな笑顔でした。

でも、本当にみんな笑っていた? 写真にも写っていますように中には怖かった。恥ずかしかった。すいか



がかわいそうで悲しい。と、人それぞれ様です。言葉や表現が得意な人が、気持ちをその場で上手に表すには少々時間が必要です。それでもボランティアのみなさんの話を聞くと、利用者の笑顔に感動し「嬉しいですっ!」と言葉をよせてくれました。人の心というものは実はとてもシンプルで率直な場所から生まれるのですね! 私は今気付きました。アツイ夏にあぶり出された初心を味わってこの世界を楽しみます。そうすればひと味違ったさくら草が見えてくるのです。皆さんありがとう、いつでもさくら草に遊びに来てくださいね。(ボランティア係: 野島・齊藤)

## 介護支援の手伝いとして宮城県に派遣した さくら草職員2人の報告です。

① 震災後、被災地に3ヶ月後訪れた私は、遠方の事でどこか忘れ、薄れてしまっていた気持ちが一気に吹き飛んだことを今でも覚えている。積み上がった瓦礫の山に、以前は、そこにあったであろう生活を一瞬で奪った津波の爪痕を目の当たりにし、震災の残酷さを肌で感じた。

今回の支援で、利用者の年齢や障害、環境は様々。だが、頑張っている。月並みな言葉だが単純にそう感じた。また、被災している同地域の住民同士、利用者とは当たり前会話していた事に地域ならではの温かさを感じた。私自身も「時間のある時に来て」「寂しい」と言葉を頂き、この場所を離れ難い気持ちになった。

今回の支援が微力ながらも、現地の力になった事を切に願う。

(渡邊: 写真右端)

活動: 社会福祉法人 石巻祥心会 くじらのしっぽ (泊)  
宮城県石巻市 2011年 6月29日~7月2日



② 7月11日夏が始まった。人は強い。いつもの生活が変わり果てるほど揺さぶられてもつどいの家の人たちは笑っていた。そして、笑わされた。私がしたことといえば、利用者と話し、本を読み、ギターを弾いて余暇を工夫する。生活での様々な不便を支える。掃除をしてコップを洗う。あ、これはいつもやらない...初心に返らねば。帰ったらやろう。

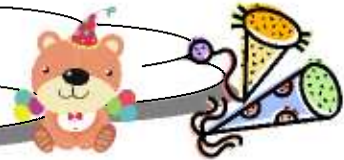
...帰ったら。私の日常に戻った。明日の仙台の天気をチェックしている自分。今でも防災についての助言をいただくなど、つどいの家の皆さんとはつながっている。仙台つどいの家本館の再建は早くても来年6月頃だそう。雪の降る冬をまたいで。自分の活動の成果は自分で表現し難い。しかし、この経験は一生忘れないと胸を張って言える。

(野島: 写真→)



活動: 社会福祉法人 つどいの家  
仙台つどいの家 けやきグループ/つどいの家・コペル(泊)  
宮城県仙台市 2011年7月11日~15日

# みんな大好き!? お楽しみ会



デイセンターさくら草では、毎月お楽しみ会を開いています。日課では見ることができないみんなの笑顔がとても印象的です。

今までコスモス班ではお花見、バケツプリン作り、すいか割り、焼き芋、おしるこ作り、カラオケなどおこなっています。みんなの日(利用者自治活動の一端)の時にはお楽しみ会の内容を話し合う事もあります。



ボーリング大会の様子

みのり班ではお花見・紅葉狩りで大崎公園にお弁当を持って出かけます。みのり班の外出では、いつも雨が降るといことが続いていました。誰が雨男・雨女なのかなという話も出ています。

そして去年の紅葉狩りでは、ついに雨は降りませんでした。しかし、急に気温が下がってしまい、予定していた日にはたくさんの落ち葉がある状態でした。きれいな紅葉は見られませんでした。いつもと違う環境で過ごす時間は楽しいものです。

その中で、温かいご飯ではないと食べない利用者さんが、お弁当をそのまま食べられたことがありました。今年のお花見はどんなことが起こるか楽しみです。

また、お楽しみ会は気になるけれども、人が多いことが苦手で、みんなの輪の中になかなか入られない利用者さんがいます。そのジレンマから、泣きだす事もありました。ところが、お楽しみ会を重ねるにつれ一緒に楽しめるようになってきました。このような変化も続けていくやりにいっています。

いつも全員が参加し、楽しめる企画をする事は難しいことです。しかし、いろいろな事にチャレンジをし新たな発見をしていきたいと思っています。利用者・職員ともに楽しい時間を過ごしていきたいです。(小林)

クッキー作りの様子



## とまと集中訓練会



8月20日のとまと集中学習会へ参加してきました。8月は集中学習会なので会場も普段とは違い、交流センターにて行いました。集中勉強会は利用者さんに触れさせてもらう時間が長くありました。そのおかげで利用者さんとゆっくり接することができ、色々とお話することができました。とまとはいつも緊張しつつも利用者さんとゆっくり接することができるのでとても充実した時間になりました。(杉山)



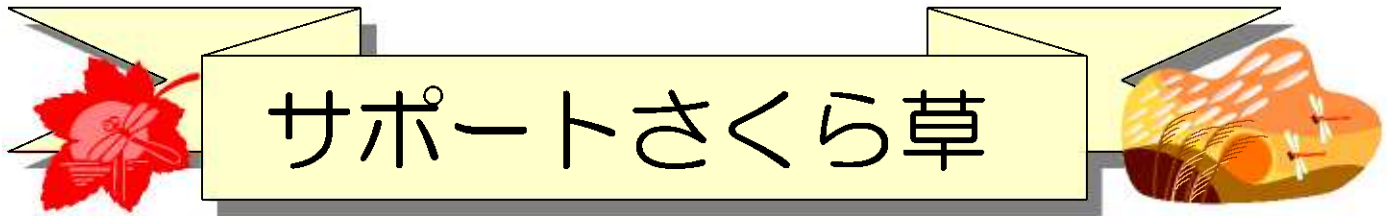
### <活動報告>

(2011年 8月 1日~23年10月31日)

8月 20日	静的弛緩誘導法とまと集中訓練会	10月 5日	コスモスそうめん流しまつり
8月 23日	被災地施設派遣報告会	10月 8日~11日	コスモス床暖房工事
8月 24日~9月5日	With one さくら草展	10月 18日、25日	AED講習会
8月 25日	みのりクッキー作り	10月 20日	みのりもみじ狩り
9月 14日	みのり水鉄砲射的ゲーム大会	10月 26日	ふたばハロウィンパーティー
9月 29日	コスモスクだものまつり	10月 29日	おまつり

健康診断一年2回 ヘアカット(理・美容) 通院介助 体重測定—毎月 誕生会—各誕生月 音楽療法—月1回  
 アロマセラピー—月1回 みんなのアトリエ—月1回 趣味の日—月1回~ 静的弛緩誘導法訓練会参加—月1回  
 陶芸—月2回 家族会—月1回 ボラ音楽交流会 授産品せっけん教室—月2回

\* コスモス床暖房整備は NHK 歳末たすけあい募金から助成をいただきました。



サポートさくら草では、職員・ヘルパーの資質向上のため、積極的に研修会・講習会に参加しています。

今回は青木職員が参加した

### 「社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会・中堅職員研修」

についてご報告いたします。



～サポートさくら草・青木昌徳職員～

今回の研修の狙いは以下の4点。

- ①中堅職員の役割行動
- ②職場の問題解決
- ③職員指導・育成の基本
- ④能力開発

講義とグループワーク演習が主な、二日間にわたる研修会でした。

今回の研修会で、青木職員が特に深く学んだのは、中堅職員の役割行動。  
中堅職員としての基本的な考え方や、組織内での自分自身のあり方。  
また、自分の役割行動を確認しつつ、職員相互での情報交換を図る大切さを学びました。

研修を踏まえて、自分自身の目的・課題が明確になったことも研修の大きな成果です。  
業務や介護の中から学んだことを、実際に身につけること。  
それを自分のものとして仕事につなげていくこと。  
自分が学んだことを、職場にかえし、全体の知識とすることが大切だ、ということも学びました。

中堅職員としての自覚をもつこと。  
さくら草に関する皆さんとともに、今後も向上していきたい。  
その思いを強くすることが出来た、とても有意義な研修会でした。



# サポートゆず

## ゆずヘルパー紹介パートV

ゆずの仲間が増えましたので、紹介させていただきます。  
すでに、6月から働いていますので、皆さんご存知かと思います。  
どうぞ気軽に声をかけて下さいね!



1. 名前
2. 血液型
3. 趣味
4. マイブーム
5. 自慢話
6. ひとこと

1. 桜沢 智美
2. B型
3. 特になし
4. 豚肉レシピ&茄レシピ
5. 愛猫ココア君、豆たんとの幸せな生活
6. 天然ですが、呆れず宜しく願います。

1. 栗原 里美
2. O型
3. スーパー銭湯に行く事
4. カーブスで運動。
5. 特になし。
6. 子どもを通じて楽しく働いて行けたら・・・と思っています。宜しく願います。

1. 飯田 敏男
2. A型
3. ゴルフ・ギター
4. 母、妻、長男の4人家族。母はカラオケ、妻はドラム、長男はギターとトランペット。音楽好きな一家です。
5. 49歳にして、孫2人。
6. いつもニコニコ元気よく!

1. 阿部 由紀美
2. O型
3. 旅行、ハイキング
4. 温泉に行く事。
5. 健康です。
6. 子どもが大好きなので、一緒に成長していきたいと思っています。宜しく願います。



1. 平山 鹿の子
2. A型
3. ドライブ、インターネットのゲーム、オークション、ショッピング
4. 食べ歩き
5. ゆずの女性の中で、腕相撲が一番強い。
6. 頑張ります。

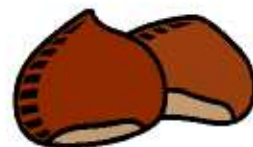
1. 飯島 圭
2. A型
3. 読書、エレクトーン
4. ラー油、ねぎ塩
5. 目覚まし時計を使わなくても、起きたい時間の5分前に起きられる。
6. まだ四苦八苦していますが、もっともっと子ども達と早く仲良くなりたいたい!

1. 安藤 孝子
2. O型
3. 読書、トールペイント
4. 面白そうな本や雑貨を探す事。抹茶ラテにはまっています。
5. 今まであまり風邪で寝込んだ事がない。
6. 子ども達と共に、成長し楽しい時間を共有していけたらと思っています。宜しく願います。

## 南区障害者生活支援センター



## あみ〜ご



残暑が厳しかった8月26日に、親子で参加する「手作りおやつ教室」を開催いたしました。当日は30度近い暑さだったにもかかわらず、2組の親子が参加してくださいました。食材の準備やおやつ作りの指導は「NPO法人 食生活カウンセラーの会(代表 阿部淳子 さん)」の皆様のご協力を、賜りました。慣れないおやつ作りに、参加者の皆様も職員も四苦八苦していましたが、時間の経過とともに笑いがこぼれるようになり、最後は見事な「グミ」「きなこあめ」「おさつだんご」の3種類のおやつを完成させました。みんなでお茶を飲みながらいただきましたが、美味しかったことは、いうまでもありません。改めて親子の絆の大切さを学ばせてもらった、夏の終わりの一日でした。



## スタッフインタビュー 第1弾

匿名を条件に、いろいろと聞いちゃいました♪

#1 「あみ〜ご」に、初めて来た頃のことを覚えていますか？

Aさん：めちゃくちゃ緊張していたことを、覚えています。最初は何をしていいのかわからず、電話にもでられませんでした。

#2 いろいろな障害をもつ人や、相談に触れてみて、戸惑いはありましたか？

Aさん：本当にいろいろな相談があるんだな、と、相談の種類の多様性に驚きました。障害の種類は「身体」、「精神」、「知的」の三種類ですが、相談の内容が三種類に収まるわけがありません。人それぞれ性格が異なるように、同じ様な相談であってもその中身はそれぞれ異なります。よって、多少戸惑いを感じることはありますが、気持ちをスパッと切り替えるように心がけています。

#3 「あみ〜ご」の仕事の特徴や、魅力は何だと思いますか？

Aさん：たくさんの人と出会えることに、魅力を感じます。出会えた人たちからの話を聞いていくうちに、その方の人間性に魅かれていくようになります。そして、支援のお手伝いをさせていただくことにより、時間を共有できることに喜びを感じます。また「憩いの場」や「おもちゃ図書館」では、利用者様の素敵な笑顔を見ることができます。素晴らしい癒しの空間があることも、「あみ〜ご」の魅力のひとつだと思います。

## 職員研修大会 - みんなで創ろうさくら草

社会福祉法人となって6年、無認可施設時代から26年目となる。利用者、職員も増え、創設の理念が伝わりにくくなってきた。5つの事業所間で顔を合わせていない職員もいる。それぞれどのような仕事をしているのか互いに知りたいという声も上がってきた。そこで、10月8日に「社会福祉法人さくら草五周年記念職員研修大会」と銘打ってさくら草の歴史や理念、将来展望を共有し、互いに連携し、法人さくら草のつながりを深めることを目的にさいたま市文化センターで研修会および交流会を行った。

役員、評議員、永年ボランティアグループ「チコリの会」、陶芸講師、職員、ヘルパー約120人が参加した。皆、普段の動きやすい服装とは違い、スーツにネクタイ着用で臨み、紳士淑女の研修会となった。

開会にあたり、役員はじめボランティアのご支援ご協力に御礼申し上げ、永年勤続職員香田さんを表彰した。また紙面を借りて、普段よりお世話になっているボランティアさんはじめ皆々様に御礼申し上げます。

以下、研修会の流れに沿って発表要旨を報告する。

### 【障害者総合福祉法の制度改正の課題：柴田理事長】

基本法改正、総合福祉部会提言などの福祉情勢について伺った。知的障害者への支援の本質は、意思決定への支援である。措置時代は指導員が決めた「訓練」であり、自立支援法では身体「介護」モデルである。総合福祉法では、心と心の共鳴・交流による「支援」を提唱したい。最新の福祉情勢を伺った。

### 【さくら草の成り立ち：菅野元さくら草の会会長、島田元会計】

さくら草の生みの母である菅野さんから、整っていなかった就学前療育や養護学校づくりの運動、無認可施設20年をお米販売やバザー、コンサートなどで支えてきた歴史、ケアホームづくりを目的に法人設立運動に入った話を伺った。歴史の一端を共有できたが、20分ではとても語りつくせない歴史がある。ぜひ時間をとりお聞きする機会をつくりたい。

### 【さくら草のあゆみ：山本本部長】

親の願いを社会福祉事業として実現していくことが職員に託されている。さくら草の歴史から、理念を「・・重い障がいがあっても自分らしい地域生活を支援・・」とした。地域で暮らすために総合的な支援をめざし日中活動、地域生活支援(社会参加・家族支援)、相談支援各事業所の社会資源づくりを進めてきた。総合的なセーフティネットを整えるため、法人設立目的である暮らしの場・ケアホームを数年内に整備する。

### 【各事業所の発表：発表職員 齊藤・鈴木・小林、青木、丸中・谷田、一之瀬・板橋・大口、八木・高橋】

デイセンターさくら草は医療的ケア他多彩な活動について。サポートさくら草は障害受容ができず支援を拒否する中途障がいの方の支援例。プライドに気遣う手の差しのべ方、息子を装っての外出支援、長い支援によって穏やかになり家人が同じフロアで暮らせるようになってきた例。サポートゆずでは、強度行動障害N君とご家族との7年の歩み、飛び降り他害など緊急時対応で父親が帰宅するまで隣室で待機し、壊れそうになる兄妹家族の絆を支えてきた。制度の枠に収まらない切実な支援例である。アシストさくら草からはAさんの外出支援を通して「強い男」になる成長を支えている例。南区障害者生活支援センターあみ〜ごからは退院したいTさんに罵声をあびながら体を張っての支援例が報告された。

各事業所から本人・家族を受容し、誠意をもって、制度を越えて生きづらさを支えようとする職員の発表に感動させられた。紙幅から詳細を紹介できないのが残念である。

さくら草は、利用者も職員も個性豊かである。縁あって集った仲間が個性を出し合い、才能を出し合い、互いに伸ばし合って今日のさくら草を築いてきた。これからも地域で支援してくださる皆様と共に地域福祉向上のため - みんなで創ろうさくら草 - をモットーに精進します。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。(山本)

### 編集後記

沼を子どもと歩いていたら教わった。  
田畑にもいる虫さんたちを。みなさん元気ですか？生きる場所は違ってもさりげなくつながっている。  
広報第17号。(のじま)